

一般社団法人日本化学連合

平成 30 年度事業報告

日本化学連合が「任意団体」から「一般社団法人」に移行してから 9 年目となり、岩澤康裕会長のもと、副会長、理事、監事が協力して運営にあたり、本年度の活動を展開した。

具体的には、運営委員会ではおもに化学コミュニケーション賞 2018 の実施、企画委員会では第 12 回日本化学連合シンポジウムの実施、また将来構想委員会では化学連合の課題と今後の在り方について検討を加えた。

さらに、昨年まで将来構想委員会にて検討されてきた化学系学協会連絡会を設置し、正会員 14 学協会に加えて 9 学協会が新たに参加して 23 学協会による化学系学協会連絡会がスタートした。また、5 学協会がオブザーバーとして参加した。連絡会の具体的活動として、定例会議を 2 回実施し、第 1 回定例会議では文部科学省研究振興局 齊藤康志参事官から“Society 5.0、SDGs を実現する「ナノテク・材料研究開発戦略」”、第 2 回定例会議では、経済産業省技術総括 福島 洋保安審議官から「新たな時代の産業技術政策について」の講演を依頼するとともに、日本化学連合会員により、学協会の運営・課題の提供を企画した。

また、外部への情報発信として政策提言・情報発信推進 WG が企画委員会と共同で「国連決議：持続可能社会（SDGs）をめざす科学技術の課題」、「大学の未来をどう描くか」と題したシンポジウムを 2 回開催した。

1. 会員の増減

本年度の正会員の会員数は日本膜学会の入会により 14 学協会となった。また賛助会員は団体会員 2 で変わらなかったが、賛助会員（個人）4 減の 6 となった。また、新規に設置した化学系学協会連絡会へ 9 学協会（火薬学会、錯体化学会、DVX α 研究協会、日本ケミカルバイオロジー学会、日本表面真空学会、日本放射化学会、日本放射線化学会、表面技術協会、粉体粉末冶金協会）の参加があった。

2. 日本化学連合平成 30 年度活動報告

2.1 化学コミュニケーション賞 2018

当連合の設立趣旨の一つである「化学関係団体が賛同して開催する事業」を強化・発展させるために、化学と化学技術に関する啓発活動や情報発信を行うことによって、化学教育、化学産業の育成、および発展に貢献した個人ならびに団体を表彰する制度を、平成 23 年（2011 年）度に「化学コミュニケーション賞」として創設した。本年度も、運営委員会委員を中心として「化学コミュニケーション賞 2018」の企画を実施した。

[運営委員会]

委員長	吉江 尚子	(代表理事 副会長 高分子学会)
副委員長	村松 淳司	(理事 東北大学)
委員	里川 重夫	(理事 日本ゼオライト学会)
委員	澤本 光男	(理事 日本化学会)
委員	関根 泰	(理事 石油学会)
委員	渡部 恭吉	(常務理事)
オブザーバー	岩澤 康裕	(代表理事 会長 日本化学会)

本年度の「化学コミュニケーション賞 2018」は、当連合の主催、(株)化学工業日報社、(一社)化学情報協会、(一社)日本サイエンスコミュニケーション協会の共催、(国研)科学技術振興機

構に加え、新たに（公社）新化学技術推進協会にも後援をいただき、実施された。2018年10月1日に募集を開始し、12月10日に締め切ったところ、個人8件、団体1件、計9件の応募があった。

[化学コミュニケーション賞 2018 賞選考委員会]

- 委員長：吉江 尚子（東京大学 生産技術研究所 教授）
委員：内田 麻理香（東京大学 特任講師・サイエンスライター）
委員：佐藤 健太郎（サイエンスライター）
委員：里川 重夫（成蹊大学 理工学部 教授）
委員：澤本 光男（中部大学 総合工学研究所 教授）
委員：関根 泰（早稲田大学 先進理工学部 教授）
委員：村松 淳司（東北大学 多元物質科学研究所 所長）
委員：安永 俊一（（株）化学工業日報社 取締役 営業企画本部長）
委員：山本 伸一（化学情報協会 企画管理室長）
委員：渡辺 政隆（日本サイエンスコミュニケーション協会 会長 / 筑波大学 教授）
委員：渡部 恭吉（日本化学連合 常務理事）

これらの応募案件について、上記の選考委員が書面審査を行ったうえ、2019年2月4日に開催した最終選考委員会で、化学コミュニケーション賞として個人1件、審査員特別賞として個人2件を下記の通り選定した。

化学コミュニケーション賞 2018（個人）

受賞者：谷藤 尚貴（米子工業高等専門学校）
業績の表題：世界へ繋がる化学教育と地域活性化への展開

化学コミュニケーション賞 2018 審査員特別賞（個人）

受賞者：田村 健治（東京都立産業技術高等専門学校）
業績の表題：幅広い世代を対象とする化学実験講座の実践

化学コミュニケーション賞 2018 審査員特別賞（個人）

受賞者：福田 俊彦（愛知県立惟信高等学校）
業績の表題：化学の好きな子どもを増やす社会貢献活動

表彰式は、3月6日に開催された第12回日本化学連合シンポジウムに先立って行われた。

2.2 第12回日本化学連合シンポジウム

本シンポジウムは企画委員会が担当し、「AIで化学、化学産業が変わる」を主題として、AI活用に必須なデータベース構築やその有効活用、産業化する際の問題点やセキュリティについてご紹介いただいた。

[企画委員会]

- | | | |
|------|-------|------------------|
| 委員長 | 長谷部伸治 | （代表理事・副会長 化学工学会） |
| 副委員長 | 荻野 賢司 | （理事 繊維学会） |
| 委員 | 目 義雄 | （理事 日本セラミックス協会） |
| 委員 | 佐藤 縁 | （理事 電気化学会） |
| 委員 | 丸岡 啓二 | （理事 京都大学） |

委員 山中 一郎 (理事 触媒学会)
委員 渡部 恭吉 (常務理事)
オブザーバー 岩澤 康裕 (代表理事 会長 日本化学会)

化学コミュニケーション賞 2018 表彰式
第 12 回日本化学連合シンポジウム

日時 2019年3月6日(水) 12:45~17:45
会場 化学会館 7階 ホール
主催 (一社) 日本化学連合
共催 (株) 化学工業日報社、(一社) 化学情報協会、(一社) 日本サイエンスコミュニケーション協会
後援 (国研) 科学技術振興機構、(公社) 新化学技術推進協会

<12:45~12:55> 開会挨拶 岩澤 康裕 (日本化学連合会長)

第 1 部 化学コミュニケーション賞 2018 表彰式 <12:55~13:45>

《司会 里川 重夫 (日本化学連合理事)》

<12:55~13:05> 選考委員長挨拶・選考結果説明
吉江 尚子 (日本化学連合副会長・化学コミュニケーション賞選考委員長)

<13:05~13:15> 授与式

<13:15~13:45> 業績紹介

化学コミュニケーション賞 2018 (個人)

「世界へ繋がる化学教育と地域活性化への展開」 (米子工業高等専門学校) 谷藤 尚貴

化学コミュニケーション賞 2018 審査員特別賞 (個人)

「幅広い世代を対象とする化学実験講座の実践」 (東京都立産業技術高等専門学校) 田村 健治

化学コミュニケーション賞 2018 審査員特別賞 (個人)

「化学の好きな子どもを増やす社会貢献活動」 (愛知県立惟信高等学校) 福田 俊彦

<13:45~14:00> 休憩

<14:00~17:45> 第 2 部 第 12 回日本化学連合シンポジウム「AI で化学、化学産業が変わる」

概要：AI は今後の大学・研究機関や企業の研究・実務を大きく変える可能性を有しています。ただ、AI を活用するためには、データを戦略的に収集、活用する必要があります。本シンポジウムでは、化学・化学産業の分野で AI に関する最先端の研究をされている講師を迎え、AI 活用に必須なデータベース構築やその有効活用に関するお話、産業化する際の問題点やネット活用で避けられないセキュリティに関するお話をお聞きします。

<14:00~14:05> シンポジウム趣旨説明

長谷部 伸治 (日本化学連合副会長・企画委員会委員長)

<14:05~14:50>

座長 目 義雄 (物質・材料研究機構)

「情報統合型物質・材料開発イニシアティブ (MI²I) の概要」

(物質・材料研究機構) 伊藤 聡

<14:50~15:35>

座長 佐藤 縁 (産業技術総合研究所)

「リチウム電池材料分野におけるマテリアルズインフォマティクスの活用」

(東京工業大学) 鈴木 耕太

<15:35~15:50> 休憩

<15:50~16:35> 座長 荻野 賢司 (東京農工大学)
「今、進んでいる時代の変化とプロセスオートメーション」 (名古屋工業大学) 橋本 芳宏
<16:35~17:20> 座長 長谷部 伸治 (京都大学)
「化学産業と AI」 (東京農工大学) 山下 善之
<17:20~17:45>
総合討論 司会 (日本化学連合) 長谷部伸治

<17:45~17:50> 閉会の挨拶 黒田 一幸 (日本化学連合副会長)

<18:00~19:30> 交流会
「トラットリア レモン」にて

シンポジウムの参加者は、一般参加者 25 名、招待者 4 名、講師 4 名、当連合役員 11 名、計 44 名であった。

2.3 将来構想委員会

将来構想委員会は、当連合が正会員学協会の連合体であることから、個々の学協会の活動と同じ活動ではなく、正会員学協会が求める当連合の活動の在り方と将来構想を提案することを目的としている。

[将来構想委員会]		
委員長	黒田 一幸	(代表理事 副会長 日本セラミックス協会)
副委員長	大塚 浩二	(理事 クロマトグラフィー科学会)
委員	後藤 元信	(理事 化学工学会)
委員	鈴木 慎一	(理事 日本化学会)
委員	関 隆広	(理事 高分子学会)
委員	高橋 嘉夫	(理事 日本地球化学会)
委員	吉松賢太郎	(理事 日本薬学会)
委員	渡部 恭吉	(常務理事)
オブザーバー	岩澤 康裕	(代表理事 会長 日本化学会)

2019年2月6日(水)に委員会を開催し、化学連合の存在意義と今後のあり方について自由討議を行い、将来構想案をまとめるための現状把握と今後の課題を検討した。

議論の結果、化学連合が若手研究者による自由な討議の場を提供することについて、委員長を中心に、具体的な計画案を検討・作成することになった。

2.4 化学系学協会連絡会の発足について

平成30年7月から化学工学会、高分子学会、日本化学会、日本薬学会のメンバーからなる連絡会幹事会を設置し、化学系学協会連絡会の発足に向けた準備を行った。10月から化学系学協会事務局に趣意書と参加案内を送付し、連絡会への参加を呼びかけた。

その結果、正会員14学協会に加え9学協会が参加し、さらに5学協会がオブザーバーとして参加した。連絡会の具体的活動として、定例会議を2回実施した。

参加学協会：

日本化学連合参画 14 学協会、火薬学会、錯体化学会、DVX α 研究協会、

日本ケミカルバイオロジー学会、日本表面真空学会、日本放射化学会、日本放射線化学会、
表面技術協会、粉体粉末冶金協会

オブザーバー参加学協会：

安全工学会、資源・素材学会、日本農芸化学会、日本分析学会、有機合成化学協会

[連絡会幹事会]

委員	会田 弘	(化学工学会 理事・事務局長)
委員	平坂 雅男	(高分子学会 代表理事常務理事・事務局長)
委員	鈴木 慎一	(日本化学会 事務局長)
委員	吉松賢太郎	(日本薬学会 常任理事)
事務局	渡部 恭吉	(常務理事)
オブザーバー	岩澤 康裕	(代表理事 会長 日本化学会)

日本化学連合 化学系学協会連絡会の発足について趣意書

一般社団法人日本化学連合
会長 岩澤 康裕

これまでの飛躍的な技術革新により、高度で豊かな現代社会が構築され、この過程において、化学を基礎とする学術領域の発展や産業への応用研究が大きな役割を果たしてきました。一方、化学の研究分野の多様化と対象の拡大は、化学産業にも大きな影響を与え、化学技術が多くの産業で活用されるに至っています。これらの基盤となる学術や産業を支える学協会も、インターネットの普及と情報収集の行動変化、専門領域の深化、学際・新興領域の発展、産業構造の変化、会員ニーズの多様化、会員減少に伴う事業運営など多くの課題に直面しています。さらに、持続可能な社会、Society5.0が描く新たな社会、AIと情報通信が築く社会環境など、外部環境も大きく変化しています。

このような状況の中、分散化する学協会活動において、学協会間のネットワークやコミュニケーションによる情報共有や共通課題の解決が取り組むべき喫緊の課題となっています。2007年に日本化学連合が設立され、10年以上にわたって参画学協会を中心に活動を行ってきましたが、これまで以上に化学系学協会の幅広いネットワークが必要な時代となっている現状を考え、化学系各学協会事務局の連携、情報交流などを目的として、新たに「化学系学協会連絡会」を発足することにいたしました。

本連絡会は、政府政策等の情報提供、学協会のプラットフォーム整備のための情報共有、学協会の連携強化などを行い、日本化学連合の会員学会のみならず、多くの化学系学協会にご参加頂くことにより、日本の学協会の発展に寄与したいと考えています。

このような活動は、日本の学術領域の進展および新たな社会環境下での産業創成に資するものであり、将来においては政府提言やアジア各国との連携も視野に入れ、日本の競争力向上に寄与していく所存です。

平成 30 年度連絡会幹事会

日本化学会、高分子学会、化学工学会、日本薬学会

日本化学連合 化学系学協会連絡会概要

日本化学連合 化学系学協会連絡会は年 2 回の定例会議を予定。

1. 年会費：10,000 円（日本化学連合の正会員は免除）
2. 定例会議：年 2 回
3. 定例会議の内容（例）と参加のメリット

- ・産・官からの情報の入手
- ・産学官とのネットワークとコミュニケーション構築
- ・学協会運営（事務局運営）に関する課題と対応例の共有
- ・政策提言、情報発信
- ・化学と化学技術の振興と啓発による社会への貢献
- ・その他

4. 一般社団法人日本化学連合と化学系学協会連絡会の位置づけ

一般社団法人日本化学連合
組織図（案）
（2018年11月7日改）

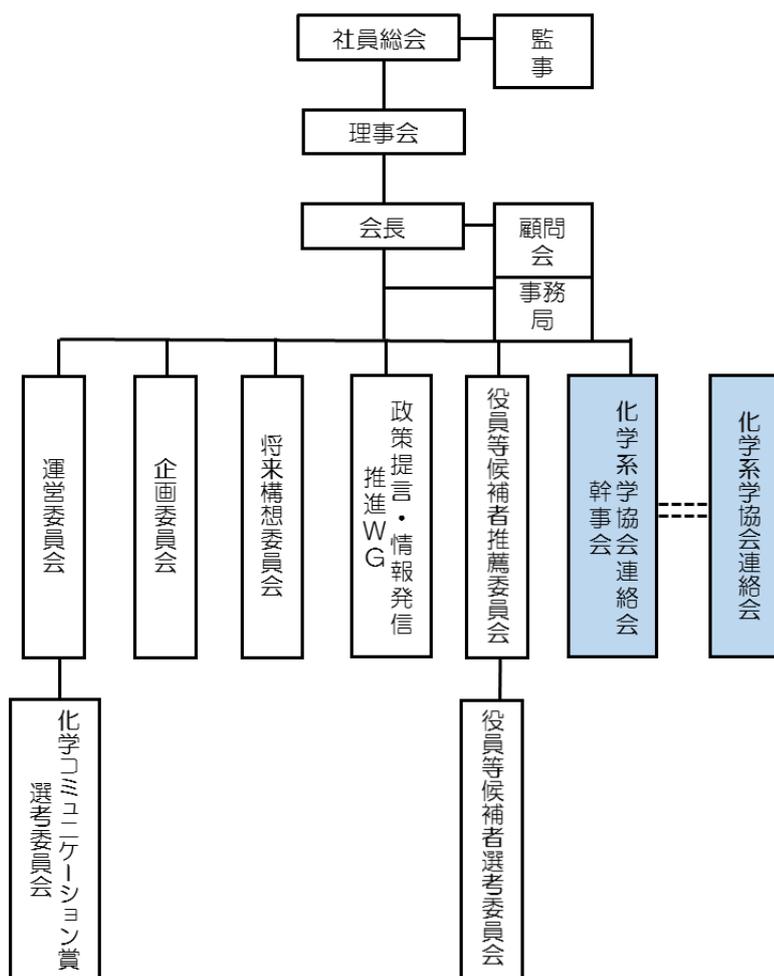


図1 一般社団法人日本化学連合と化学系学協会連絡会の位置づけ

化学系学協会連絡会 第1回定例会議

日時：11月26日（月）10：00-12：00

会場：化学会館5階会議室（東京都千代田区神田駿河台1-5）

プログラム：

10:00～10:10 趣旨説明

10:10～10:50 講演

日本化学連合会長 岩澤康裕

“Society 5.0、SDGs を実現する「ナノテク・材料研究開発戦略」”

文部科学省研究振興局 齊藤康志参事官

10:50～11:05 名刺交換会

11:05～11:55 学協会の運営・課題の提供

・高分子学会の事例紹介

常務理事・事務局長 平坂雅男

・日本化学会の事例紹介

事務局長 鈴木慎一

化学系学協会連絡会 第2回定例会議

日時：2019年3月4日（月）10:00～12:00

会場：化学会館5階会議室（東京都千代田区神田駿河台1-5）

プログラム：

10:00～10:10 開会挨拶

日本化学連合会長 岩澤康裕

10:10～10:50 講演「新たな時代の産業技術政策について」

経済産業省 技術総括・保安審議官 福島 洋

10:50～11:05 名刺交換会

11:05～11:55 学協会の運営・課題の提供

・化学工学会の事例紹介

理事・事務局長 会田 弘

・日本薬学会の事例紹介

常任理事 吉松賢太郎

2.5 外部への情報発信

化学系学協会の連合体として2007年に発足した「日本化学連合」は、毎年化学分野のトピックスを題材に年1回のシンポジウムを開催してきた。それに加えて今年度は関係学協会に共通する課題、教育研究環境、学術政策あるいは社会的な話題を取り上げて、情報共有と議論の場を提供することで必要な政策提言や情報発信を行う目的で、2件のシンポジウムを政策提言・情報発信推進WGが企画委員会と共同で開催した。

本年度に開催した2件のシンポジウムの概要は以下の通りである。

シンポジウム1

「国連決議：持続可能社会（SDGs）をめざす科学技術の課題」

主催 一般社団法人日本化学連合

協賛 公益社団法人新化学技術推進協会・一般社団法人日本化学工業協会

後援 国立研究開発法人科学技術振興機構

日時 2018年11月27日（火）13:00～17:15

会場 日本化学会化学会館7階ホール（東京都千代田区神田駿河台1-5）

【プログラム】

(13:00～13:10)開会挨拶：趣旨説明

一般社団法人日本化学連合会長 岩澤康裕

(13:10～13:40)

司会：高橋理事

「国家戦略とSDGs：政府の取組み方針」

内閣府総合科学技術・イノベーション会議議員、国立研究開発法人物質材料研究機構理事

長

橋本和仁

(13:40~14:10)

司会：高橋理事

「SDGs：議論から実行へ、21世紀の科学技術の責務」

政策研究大学院大学教授・科学技術イノベーション政策研究センター副センター長・

国立研究開発法人 科学技術振興機構研究開発戦略センター上席フェロー

有本建男

(14:10~14:50)

司会：佐藤理事

「文部科学省および経済産業省のSDGsの取り組み」

①文部科学省科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官

上田光幸

②経済産業省技術総括・保安審議官

福島 洋

—休憩 15 分—

(15:05~16:05)

司会：黒田理事

「大学におけるSDGsへの取組み」

①東京大学 執行役・副学長

相原博昭

②岡山大学 副理事・教授 SDGs推進企画会議議長

狩野光伸

(16:05~17:05)

司会：山中理事

「企業活動とSDGs」

①新化学技術推進協会事業統括部長

片岡正樹

②三菱ケミカルホールディング取締役

浦田尚男

③住友化学(株)執行役員

広岡敦子

(17:05~17:15)閉会挨拶:まとめ

一般社団法人日本化学連合副会長 長谷部伸治

※参加者数：59名（内訳：有料参加者51名、関係招待者2名、講師6名）

シンポジウム2

「大学の未来をどう描くか」

主催：一般社団法人 日本化学連合

協賛：日本生物科学学会連合、日本地球惑星科学連合、日本物理学会、応用物理学会

後援：一般社団法人 国立大学協会

日時 2018年12月26日(水) 13:00~17:20

会場 日本化学会化学会館5階会議室(東京都千代田区神田駿河台1-5)

【プログラム】

開会挨拶：趣旨説明(13:00~13:10)

一般社団法人日本化学連合会長 岩澤康裕

(13:10~13:35)

司会：吉松理事

「我が国の高等教育および大学運営の課題と方向」

文部科学省高等教育局国立大学法人支援視学官・大学改革官

佐藤邦明

(13:35~14:00)

司会：吉江理事

「今後の大学の将来像：中央教育審議会最終答申」

文部科学省中央教育審議会大学分科会将来構想部会長・筑波大学学長

永田恭介

(14:00~14:25)

司会：荻野理事

「東海国立大学機構(仮称)の動きと大学強化」

名古屋大学理事・副総長・大学院理学研究科教授

渡辺芳人

(14:25~14:50)

司会：荻野理事

「大学の将来発展を目指して：北陸発の試みー大学改革と地方創生」

北陸先端科学技術大学院大学総括理事・副学長・産学連携本部長

寺野 稔

—休憩 10 分—

(15:00~15:25)

司会：目 理事

「文科省と国大協のロゴ：その深い意味」

独立行政法人日本学術振興会学術システム研究センター顧問

前岐阜大学学長・東京大学名誉教授

黒木登志夫

(15:25~15:50)

司会：目 理事

「大学の教育・研究システム改革：大学院改革の視点から」

中央教育審議会大学分科会大学院部会長・東京大学 大学執行役副学長（前理化学研究所理事）・政策研究ビジョンセンター特任教授

有信睦弘

—休憩 10 分—

(16:00~17:15)

司会：日本化学連合岩澤会長

パネル討論：大学の未来をどう描くか

パネリスト：各講演者、

※参加者数：45名（内訳：有料参加者 37名、関係招待者 2名、講師 6名）

3. 会計

収入の部

正会員学協会からの会費収入は、新入会が1学会あり3万円増、賛助会員（団体）からの会費収入は25万円、賛助会員（個人）からの会費収入は9万円であった。また、化学系学協会連絡会の会費半年分として3万円の新規収入があった。さらに、本年度も（株）化学工業日報社および（一社）化学情報協会より、当連合主催事業「化学コミュニケーション賞2018」の活動に対して共催金として100万円（@50万円×2）の補助を受けた。また、新たにシンポジウムを2回開催したことにより収入合計は5,862,558円となり、対予算58万円の収入増であった。

支出の部

会議費は予算額に比して約24万円減少したが、事業費は新たにシンポジウムを2回開催したことにより予算額に比して約87万円のマイナスとなり、事業費合計は、予算額に比して約63万円のマイナスとなった。一方、管理費合計は、事務職員を7月から雇用したため、予算額に比して約59万円のマイナスとなった。この結果、当期支出合計は6,392,865円となり、予算額に比して約122万円のマイナスとなった。

結局、当期収支差額は約53万円のマイナスとなり、次期繰越金は457万円となった。

4. 処務の概要

4.1 定時社員総会

1回

通常理事会

5回

（第2回通常理事会はメール審議を実施。第5回通常理事会は、第4回通常理事会との議題の重複を避けるために、メール審議を実施予定）

4.2 理事19名、監事2名

4.3 委員会など

運営委員会	1回
企画委員会	1回 (シンポジウムの企画についてのメール討議)
将来構想委員会	1回
政策提言・情報発信推進 WG	1回
化学コミュニケーション賞最終選考委員会	1回
化学系学協会連絡会幹事会	4回
正会員学協会会長・事務局長会	1回 (2019年5月に開催)
監査会	1回

以上